



テクニカル・メッセージ

エアドライヤー及びエア系装置の点検整備のお願い

近年の大型車ブレーキ及びエア系装置は電子制御によりデバイスが高精度化しております。このため、従来以上にエアドライヤー及びエア系装置の点検整備が重要となっておりますので、確実な定期点検整備の実施をお願いします。

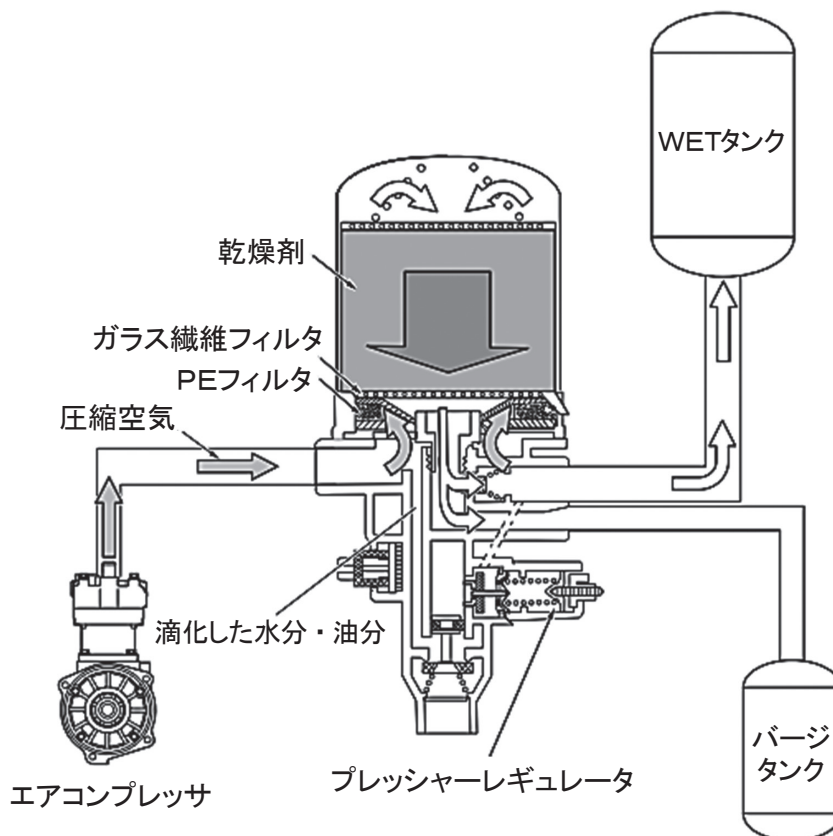
■ 対象車両

2010年以降 大型トラック（プロフィア）・大型観光バス（セレガ）



■ エアドライヤーの役割について

エンジンと直結したエアコンプレッサで空気を圧縮し各装置に送られます。この圧縮空気中には『水分』やエアコンプレッサの潤滑に使用している『油分』が含まれており、エアドライヤーはこの『水分』と『油分』を捕捉する重要な役割があります。



<エア回路図>

■ エアドライヤーの乾燥剤・フィルタを定期整備せずに使い続けると

エアドライヤーの乾燥剤及びフィルタを交換しないまま使用し続けると、エア経路に水分や油分が入り込み、ブレーキ装置等の故障を引き起こす恐れがあります。

<故障の事例>

- ・エア系 → バルブ等の機能不良及びエア漏れ
- ・ブレーキ系 → 引き摺り、急制動（カックンブレーキ）、ロックパーキングブレーキ解除不良
- ・駆動系 → トランスミッション変速不良、クラッチ切れ・接続不良

<新品の乾燥剤>



<劣化した乾燥剤>



<新品のフィルタ>



<劣化したフィルタ>



■ 日常点検・定期点検整備について

点検・交換時期	装置	点検交換・整備項目
日常点検	制動	エンジンをかけてエア圧が充てんされるとエアドライヤー下部のエキゾーストポートからエアが排出されることを確認してください。
3ヶ月毎 または 15,000Km	制動	エアドライヤーから排出される水をよく見ます。 普通の使用条件でも、エアタンクから水が出たり、エアドライヤーから異常にオイルが出るときは、最寄りの日野整備工場での点検・整備を受けてください。
1年毎 または 60,000Km	制動	<p>エアドライヤーの乾燥剤・フィルタ・ゴム部品は全て交換してください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>乾燥剤キット</p> <p>乾燥剤 フィルタ ゴム部品</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>エアドライヤー</p> <p>乾燥剤 フィルタ</p> </div> </div>
2年毎交換	クラッチ	クラッチブースタのゴム、樹脂部品を交換してください。 (プロシフト16付車を除く)
	トランスミッション	電子制御フロアチェンジ変速機（プロシフト）オートクラッチユニットのゴム、樹脂部品を交換してください。（プロシフト16付車を除く） 電気エア式変速機（FFシフト）シフトユニットのグリース、シール部品を交換してください。
4年毎交換	トランスミッション	電子制御フロアチェンジ変速機（プロシフト）シフト／セレクトユニットのゴム部品、及び電磁弁を交換してください。 電気エア式変速機（FFシフト）シフトユニットの電磁弁を交換してください。
5年毎交換	制動	電子制御ブレーキ（EBS）用バルブ類を交換してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・ブレーキシグナルトランスミッタ <li style="width: 50%;">・プロポーショナルリレーバルブ <li style="width: 50%;">・バックアップバルブ <li style="width: 50%;">・アクスルモジュレータ <li style="width: 50%;">・トレーラコントロールバルブ

- ・詳細はメンテナンスノート、取扱説明書、整備解説書をご参照ください。
- ・メンテナンスノート等の内容について、ご不明な点がございましたら、最寄りの日野販売会社までお問い合わせください。